

公立大学法人横浜市立大学の平成30年度年度計画に対する各委員評価一覧

S(4):年度計画を上回って達成している。または達成の難易度が高い計画を順調に達成している。 A(3):年度計画を順調に達成している。
B(2):年度計画を十分には達成できていない C評価(1):年度計画をほとんど達成していない。

平成30年度 年度計画(項目)	頁	法人自己評価	委員会評価(案)	委員評価	コメント
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	10	A	A(3.1)	A+	高等教育機関の眼目である教育研究に優れた成果を上げており、Sに近いAと評価
				A	
				A	以下の諸項目について年度計画を順調に実行している。
				A	
				A	
I-1 教育に関する取組	10	A	A(3.1)	A+	十分な入学者の確保、授業の工夫、医療人の国家資格の高位合格率達成など、教育上の取り組みに優れたものがある。
				A	
				A	データサイエンス学部の開始などの目標について順調な歩みを迎っている。
				A	医師国家試験合格率97.7%(全国3位)、看護師国家試験及び保健師国家試験の合格率100%の成果に、これまでの具体的施策への取組や、支援効果が結実している。
				A	
I-1-(1)全学的な取組	10				文科省への新学部設置届出が受理され、入学試験に於ける志願者数が増加するとともに、入学者の質的向上にも繋がった。30年度文科省補助事業に採択され、明治大学・東京理科大学との3大学合同で履修プログラム「データサイエンティスト育成」の取組を開始した。次回の認証評価に対応できるよう、全学的なIR推進体制を整えた。
					データサイエンス学部の体制強化、企業との連携を具体的に進め、対外アピールを含め、確実な成果を發揮した。
I-1-(2)学部教育に関する取組	14				データサイエンス学部、国際総合科学部、及び再編後の新学部の連携について会議体の合同開催、専門科目の相互乗り入れ等具体的な取組を決定・実施した。更に全学的なデータサイエンス教育の推進を図るために、データサイエンス教育センターを設置した。全授業科目でのアクティブラーニング導入率は92.1%となり、目標値80%を大幅に上回った。
I-1-(3)大学院教育に関する取組	17				領域横断型研究を視野に入れ、他研究科との連携として関連科目を設置した。英語科目の拡充、海外研究者を招聘しての実践的英語による講義を実施する等、英語教育に力を入れた。
					高齢化、就労期間の長期化により、社会人・中高年の学び直しの必要性が増しています。昼夜の教員の配置など容易ではないかと思いますが、社会人のキャリアアップやキャリア転換のニーズを満たすような学習機会が増えるとよいと思います。
I-1-(4)学生支援に関する取組	19				学生の経済的支援・学修環境の整備・健康面のサポートへの取組を行った。留学生の就職支援に関するさまざまな企画を展開した。
I-2 研究の推進に関する取組	20	A	A(3.1)	A+	戦略的研究推進事業や学術的研究推進事業の推進など、研究推進のための取り組みに優れたものがある。
				A	
				A	科研費助成事業や共同受託研究に積極的に当たり、横浜市と協働して研究を進めるなど、実学の面で評価することができる。
				A	
				A	
I-2-(1)研究の推進に関する取組	20				先端医学科学研究センターでは、イノベーションシステム整備事業で文科省の「S」評価を得た。今後、企業との継続的な共同研究へと発展していくことへの期待が評価されたとともに、基礎研究から臨床研究へのトランスレーショナルリサーチ体制の構築と、それを支える研究棟の整備も評価された。科研費の採択件数494件、共同受託研究数325件と、伸びている。
I-2-(2)研究実施体制等の整備に関する取組	21				
II 地域貢献に関する取組	24	A	S(3.7)	A+	地域連携の充実や学生ボランティア活動の活性化、公開講座の拡充により、優れた成果を挙げている。
				S	学生のボランティア派遣数は目標値を大幅に上回り、地域貢献に関する全学的な取組の体制も強化されて、横浜市との連携取組件数も目標値を上回った。エクステンション講座も市との連携において目標値を上回り、地域貢献は着々と進行している。
				A	地域貢献推進本部会議など大学が組織を挙げて横浜市の抱える課題に取り組んでいる。今後大きなテーマとなる医療と福祉の分野などにも貢献できると思われる。
				S	持ちうる特性・機能を継続して活かし、大いに貢献している。
				S	金沢区周辺は市内でも高齢化や空家問題が軽視できないエリアであり、学生が都市問題や地域経済に関わる機会が増えるのは有意義なことと考えます。1(3)とも関連しますが、家庭を中心にしてきた女性や中高年の方にも学びの機会が増えれば地域社会活性化にもつながりますし、履修証明プログラムや科目履修生など学びの門戸が広がると思います。
III 国際化に関する取組	28	A	A(3.2)	A	留学生受け入れ、学生の海外留学体験等、各般に亘る努力により、優れた成果を挙げている。
				S	国際化に関しては、ここ数年で格段の進展があった。安定的な宿舎確保、奨学金制度の新設等、留学生の受入体制の整備を行った。在学中に海外派遣プログラムに参加した学生の比率も、31%と目標値を達成した。その他グローバル人材育成に寄与する機会を、学生に提供した。
				A	アジア諸国からの多くの留学生が学び、その後も横浜市で就労するなどあって、国際化に向けた活動が横浜市として実を結んでいく状況を評価したい。
				A	留学生受入、派遣ともに順調に確実に成果を出している。
				A	留学生受け入れ教増とともに、在校生の国際交流の機会がますます増加することを期待します。
IV 附属2病院(附属病院及び附属市民総合医療センター)に関する目標を達成するための取組	30	A	A(3.2)	S	癌などの政策的医療の充実、高度救命救急の高い成果、地域医療機関との連携強化、医療安全を含む患者支援体制の強化に加え、病院の黒字経営を2年連続で達成したことは特筆に値する。
				A	
				A	以下に示す諸項目において年度計画を順調に達成している。
				A	高度救命救急センターが厚生労働省による救命救急センターの診療体制や診療実績を評価する「充実段階評価」において、全国289施設中、第3位になったことや、2病院が地域医療の最後の砦の役割を十分に果たしていることは大いに評価したい。これこそが市大のアイデンティティである。
				A	
IV-1 医療分野・医療提供等に関する取組	30	A	A(3.0)	A	がん医療に対しては、がんゲノム医療の提供体制を充実させる(附)と共に、がん治療機能の向上に取り組んだ(セ)。センター病院は高度救命救急センターとして、救急医療の推進、横浜市重症外傷センターとして、重症外傷の救急搬送にも対応する他、周産期救急や精神科救急医療体制を充実させる等救急医療に貢献した。
				A	大学病院として果たすべき役割を着実に進めている。
				A	
				A	
				A	
IV-2 医療人材の育成等に関する取組	34	A	A(3.0)	A	2病院において臨床研修医マッチングにおいて医科・歯科ともフルマッチを達成した。新たな取組として、薬剤師国家試験合格者を受け入れるレジデント制度を導入、大学病院としての使命である高度な教育・研究を実現しながら、戦力となる人材の確保を行なった。
				A	特定看護師の養成や医師らの労働環境の向上など、時代の要請に応じた取り組みを堅実に熟している。
				A	
				A	
				A	

平成30年度 年度計画 (項目)	頁	法人 自己 評価	委員会 評価(案)	委員 評価	コメント
IV-3 地域医療に関する取組	38	A	A (3.1)	A+	
				A	附属病院では「地域連携懇話会」を開催したり、「患者サポートセンター」の体制の強化や入院支援の充実を図った。センター病院では「連携医療機関連絡会」を通して病診連携を推進したり、外来受診に関する課題の解決に「外来機能の適正化プロジェクト」を設置した。両病院ともに地域医療に貢献している。
				A	患者サポートセンターによる支援のみならず、在宅療養支援看護師の訪問による前方・後方連携の充実への取り組みがある。またエイズや肝炎患、緩和ケアなど広範囲に地域に貢献している。
				A	
IV-4 先進的医療・研究に関する取組	40	A	A (3.0)	A	先進医療申請件数は附属病院は3件で目標数2件を上回り、センター病院では1件で目標値を達成した。附属2病院と医学部が連携し、先進的な医療を提供する体制を構築するため、臨床研究に係わるセミナー研修会を計画的に実施した。
				A	基礎から臨床に至る橋渡し研究の促進や、臨床研究中核病院の要件を満たす取り組みなど多岐にわたる活動を進めている。
				A	
				A	
IV-5 医療安全・病院経営に関する取組	42	A	A (3.2)	S	
				A	検査結果の情報を正確に把握し、治療に適切に反映できる体制を構築するため、システムの導入によるハード面の整備や講演会などによる意識啓発により、医療安全意識の向上に努めた。病院経営の改善について附属病院では病床管理体制の強化を図るとともに、当日の空床状況の見える化・共有に取り組んだ。平均在院日数は2病院とも短縮化が進み、新入院患者数も増加した。教職員配置数の見直しによる診療体制の強化・充実、手術数の増加などにより、病院経営の改善を着実に進めた。
				A	医療安全、病院経営の核となる病院長のガバナンスが発揮できる体制へと質の向上が図られている。これに基づく院内の諸活動が効果的に展開できている。
				A	センター病院において、二次救急の更なる受け入れ強化により、開院以来はじめて新入院患者数が20,000人を上回ったことや、効率的な手術枠の運用に努めた結果、2病院とも手術件数が増加したこと、これらの努力に敬意を表したい。
V 法人の経営に関する目標を達成するための取組	49	A	A (3.1)	A+	
				A	
				A	ひき続きコンプライアンスやガバナンスの面で一層の強化が求められるが、年次計画における法人経営は順調になされていると評価することができる。
				A	
V-1 業務運営の改善に関する取組	49	A	B	A	一部に不祥事があったものの、種々の努力の跡が見られ、優れた取り組みと認められる。
				A	
				A	女性の活躍促進や各職種に求められる職業倫理的な側面での強化など課題は少なくないが、学長・理事長のリーダーシップの下で年度計画を地道に熟している。
				A	アカデミックハラスメントその他の不祥事につきましては遺憾ですが、事後の適切な対応を評価いたします。今後の継続的な研修、コンプライアンスの周知徹底を期待します。
V-1(1)コンプライアンス推進及びガバナンス機能強化等運営の改善に関する取組	49				コンプライアンス推進、ガバナンス両面ともに具体的施策を展開しており、確実に効果を発揮し、一体感ある風土が定着してきていると評価する。
V-1(2)人材育成・人事制度に関する取組	51				
V-1(3)大学の発展に向けた基盤整備に関する取組	53				
V-1(4)情報の発信に関する取組	54				
V-2 財務内容の改善に関する取組	55	A	A (3.3)	A+	2期連続の黒字実現はすばらしい。
				A	
				A	外部資金を獲得したり、法人全体としての収支の均衡を維持したりすることについて評価することができる。
				S	何より、様々な具体的取組により、法人全体で2期連続の黒字を達成したことは特筆できる。特に2病院における医療現場での様々な取組の改善、更には財務面の改善については大いに評価したい。
V-2(1)運営交付金・貸付金に関する取組	55				
V-2(2)自己収入の拡充に関する取組					
V-2(3)経営の効率化に関する取組					
IV 自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組	56	A	A (3.0)	A	
				A	
				A	この項目に必要ないくつもの対応を確実に進めている。社会情勢について留意していることも評価できる。
				A	

総合コメント	全体として、法人・大学関係者のご努力の状況がよくわかり、優れた成果を上げていると評価。Sに近いAの評価も多く、今後に大きな期待。
	教育面ではデータサイエンス学部が発足し、国際総合科学部が国際教養学部、国際商学部、理学部に再編され、入学志願者数も増加するなど、学部教育の体制が整うとともに充実した。地域貢献事業への取組も拡大し、大学と地域の連携がより深まり、市立大学としての役割が一層高まった。国際化に関しては、在学生の海外派遣が増加してきたのに加え、留学生数も増加し、派遣学生比率・留学生比率ともに年度目標値を達成した。更に協定校数も目標値を達成した。国際化に関しては、長年評価委員会で指摘を受けていたことであり、ここまで来たのも大学の並々ならぬ努力の成果であると、高く評価したい。研究面では、イノベーションシステム整備事業が文科省の「S」評価を受けた。これは企業との共同研究が発展してきたこと、施設の整備が行われてきたことへの評価であり、今後がん診断マーカーやリハビリ促進薬の実用化に繋がるのが期待される。以上特に教育、研究面で目立った進展があった年度と思われる。
	<ul style="list-style-type: none"> 全ての評価項目において改善効果があらわれており、大いに評価できる。 今期、そして今後も更に教育、研究、医療、地域貢献への取組が継続されるよう期待したい。
	今回初めて評価委員を務めさせていただきましたが、設置学部の見直しや国際化の取り組みなど、これからの社会に必要とされる若い人材育成のために積極的に転換されている姿勢を伺うことができました。ただ、一般の高校生や保護者にはそういったことがまだ十分伝わっていないようにも感じますので、今後の広報戦略にも期待しております。